

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900075		
法人名	株式会社 メディカル神戸		
事業所名	萌花甲子園(グループホーム)		
所在地	兵庫県西宮市甲子園六番町14番25号		
自己評価作成日	平成26年 1月21日	評価結果市町村受理日	平成26年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107		
訪問調査日	平成26年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一建物一階に協力医療機関があり、24時間体制で医療と連携しており、入居者や家族に安心感を持ていただいている。又、ターミナルケアまでの取組体制も整っている。 「入居者様に笑顔を！家族様に安心を！」をモットーに入居者や家族の笑顔を大切にしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阪神甲子園駅近くに立地し、1階には協力医療機関、3階には小規模多機能型居宅介護事業所があり、2階の当事業所とともに、医療と介護の連携が図られている。協力医療機関との連携により、日常的な相談や緊急時対応等、家族・利用者に医療面で安心感を与えており、また、事業所では希望があれば看取り介護を支援する方針があり、安心して暮らせる環境づくりに努めている。当グループホームは1ユニット型利用者9名のホームであり、利用者一人ひとりに目配りしたきめ細やかなケアが提供されている。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践 状況	実践 状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、基本理念の読み上げを行っており、理念にそったケアを実践するよう職員間で共有している。	法人の基本理念を基に、安心・安全・笑顔の提供という事業所の理念を作っている。グループホーム入り口や職員室に掲示すると共に、毎朝読み上げを行って、職員間の共有と浸透を図っている。職員会議・法人の運営会議等で日々のケアを理念に戻って振り返っている。ヒヤリハット・事故等発生時には当日に検証を行い、介護技術向上のための研鑽に努め再発防止に取り組む等、理念の具現化に向け取り組んでいる。	事業所は利用者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられるよう取り組んでいることを踏まえ、地域密着型サービスの意義・役割を理念の中に言語化することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園の子供達と交流している。自治会主催の桜まつりに受け入れてもらい参加している。又、近隣中学生の職場体験学習の受け入れをして交流をもっている。自治会長来訪にて入所者に声を掛けて下さる。	自治会に加入している。限定された利用者であるが自治会主催のさくら祭りへ参加や自治会長の来訪がある。近隣の保育園児の来訪、中学生のトライやるウィークの受け入れ、近隣商店でのおやつやの買い入れ等、地域との交流が行われている。地域包括支援センターと連携して、同じ建物内の協力医療機関を通じて介護相談の実施等、地域で必要とされる役割や活動を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談来訪者には親身に話を聞き、対象者への理解や支援方法を伝え、相談者の力になれるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者家族、民生委員、市職員、他施設の知見を有する者に参加を依頼し、運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。現状の報告、問題提起、参加者からの助言を運営に活かしている。家族の声をサービス向上につなげていくよう努力している。	家族代表・民生委員・市職員（本年から地域包括支援センター職員）・知見を有する者等が参加し、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や行事等事業所の取組み、第三者評価の受審結果等の報告を行うと共に、課題等について話し合っている。	運営推進会議を事業所からの報告に留めず、話し合いの場とし、そこでの意見等をサービスの向上に活かす取り組みが期待される。また、可能な限り利用者にも参加を呼びかけ、より多くの意見等をサービスの向上に活かし、外部者に意見等を表す機会づくりとしてはどうか。

自己 評価	第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加があり、情報の共有や意見交換、行事の案内などを行なっている。運営推進会議の議事録を作成し報告している。市の職員も参加する事業者連絡会に出席している。必要に応じて市の担当者へ相談している。今後も市との連携を密にとっていきたい。	市職員(本年からは地域包括支援センター職員)が運営推進会議に参加しており、事業所の状況や取り組み等の情報提供を行っている。運営推進会議議事録は市へ直接持参するとともに、利用者からの相談取次等、連絡を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	周辺の交通量が多い為、2F玄関にはオートロックの鍵をつけている。その他の鍵はつけておらずエレベーターの利用も可能となっている。宿泊室にも鍵はついていない。原則として身体拘束をしないケアを職員間で統一している。	年間研修計画に採り入れて、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で研修を実施し、具体的事例を用いながら、拘束がもたらす弊害や禁止の対象となる具体的な行為を学んでいる。研修に参加出来なかった職員には資料を配布して研修内容の周知を図っている。拘束が疑われる事例があれば、申し送り時やその都度注意し合っている。見守りの徹底を図り、予測されるリスクを家族にも説明の上、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、グループホーム玄関は施錠しているが、利用者はほとんど使用せず、エレベーターを使用している。エレベーターは自由に使用でき、1階のクリニックを経由して外出できる。利用者の外出希望や気配を感じた時は、さりげなく付き添って外出している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の心身の状態や様子観察できるよう小さな事まで注意を払うように努めている。言葉一つで虐待に繋がる事を職員へ指導する等、理解へ繋げている。	身体拘束に関する研修と同じ方法で研修を実施し、新聞記事等の事例を用いながら、虐待の対象となる言動や職員の責務等を学んでいる。虐待に繋がる恐れがある言葉遣い等があれば、その都度注意し合っている。職員体制、夜勤明けの勤務はさせない等の法令遵守に配慮した勤務シフトの作成等、職員の疲れやストレスが利用者のケアに影響を与えないよう取り組んでいる。利用者が一時帰宅する時は、家族へ介護負担軽減のためのアドバイスをしたり、入浴時の利用者の身体状況等に留意し、自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い防止に努めている。	

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修等で学ぶ機会を作るようにしていきたい。	現在成年後見人制度等を活用している人はいない。また、職員間で理解に温度差がある現状があり、制度等について系統的にしっかり学ぶ機会は持っていない。	新たな活用や支援の必要性が生じたときに備え、権利擁護に関する制度等の理解を深めておく機会を持つことが望ましい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約の段階から十分な説明をし、納得、同意を得るようにしている。不安や疑問点については誠意をもって答えるように努めている。	見学時に概ねの内容を説明し、契約書等を自宅へ持ち帰ってもらっている。契約時には疑問点等の質問がないか尋ね、パンフレットを併用しながら時間をかけて説明している。利用料金関係や看取りケアに関する事業所の対応法方針等の項目についてはしっかり説明している。料金改正等で契約書の内容を変更する時は、根拠を明示した文書を家族に送り、同意を得ている。この1年は死亡退居のみであるが、入院や入所等での解約時には、解約後の支援方法の相談や情報提供を行う等、十分な説明と納得を経ての円滑な解約のための支援を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議や家族来訪時に意見や要望等を聞く機会をつくっている。	家族訪問時には必ず声かけと挨拶を行い、近況報告しながら意見・要望等の把握に努めている。家族が利用料金支払(基本的に全家族月1回来訪)のために来訪する機会も意見等を把握する機会としている。家族会を秋祭り終了後に開催し、家族全員に発言の機会を設けている。また、第三者評価時の家族アンケート等も尊重し、日常的な外出機会の頻度を増やすよう取り組む等、意見を運営に反映させている。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度職員会議を開催し、職員からの意見・提案を聞くようにしている。職員の声を反映できるように2週間に一度、オーナー、代表、管理者等による運営会議の場を設けている。	管理者は日常的に職員に声かけを行うと共に、職員会議・法人の運営会議等で職員からの要望・提案等を聞く機会を設けている。また、代表者も随時事業所を訪問して、職員にも声かけを行い、法人運営会議に参加して意見の把握に努めている。毎食前に嚥下体操を採り入れる等、出された意見を運営に反映させている。また、利用者の状況や嗜好に、より一層沿った食事の提供ができるよう検討している。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が安心・快適に働く事ができるような勤務シフトの作成に努め、資格手当などにより職員の能力向上に酬いる体制をとっている。法令を遵守した職場環境条件の提供を行なっている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の力量に合わせた法人の内外の適切な研修を適切な時期に受けられるよう積極的に勧め、全体のスキルアップを図っている。又、半年に一度自己評価表をつけてもらい、自己反省及び能力向上に努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる市の連絡会に管理者を出席させ、情報交換、サービスの質の向上に努めている。職員を勉強会に参加させている。		

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が安心して暮せる環境を提供するため、言葉一つ一つに耳を傾け信頼関係作りを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちを考慮して安心していただけるよう対応している。家族との信頼関係も大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能型居宅介護施設を併設しており、本人が一番必要としているサービスを提案できるよう、他のサービス利用を含めた視点で見ようとしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームを家庭であると捉えている。日々の暮らしの中で昔の話を聞かせてもらいながらお茶パック作りや布切り、洗濯物たたみなど入所者ができる家事を職員が一緒に行うことで支えあう関係作りをしている。		

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	職員はホームを家庭であると捉えている。 日々の暮らしの中で昔の話を聞かせてもら いながら洗濯物たたみ、掃除など入所者が できる家事を職員と一緒にすることで支えあ う関係作りをしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・来客などには入所者に了承を取りな がら積極的に対応し、関係継続の支援に努 めている。	入居時に生活歴・趣味・意向等を聞き取ると 共に、日々の係わりの中から今までの利用 者と地域社会との関係を把握している。親戚 の人等の来訪時には湯茶の接待とプライバ シーを確保しながらゆったり過ごせる場所を 提供して支援している。利用者の馴染みの薬 局やスーパーへの同行、ドライブを兼ねての 馴染みの場所訪問等、利用者がこれまで大 切にしてきた馴染みの人や場との関係継続 の支援を行っている。	馴染みの人や場との関係継続の支援 を行うための情報量の把握が十分と は言えないので、「アセスメントシート」 の「社会との係わり」欄の活用等に努 めることが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	スタッフが間に入り入所者同士の関わり合 いを大切にしている。DVDのカラオケソフト を使用し、一緒に歌を歌ったりして過ごして いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても今までの関係性を大切に しながら、相談や支援に対応していくように 努めている。		

計画決定日：平成26年6月26日					
自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者や家族から一人一人の思いや暮らし方の希望の把握に努めるとともに、入居以前の暮らしを遮断しないようにしている(友人との交流など)。認知症が進んで意向を把握するのが困難な入所者については、馴染みの暮らし方を家族に聞いたり、入所者との会話で意向を推量している。	入居時のアセスメントシートや、日々の係わりの中でのコミュニケーションを大切にし、利用者の思いや意向を把握している。また、意思の疎通が難しい利用者は家族から意向等を聞き取ったり、言動・表情等に留意して時々状況に応じて支援している。	把握した意向等を「介護日誌」や「個人ファイル」等に記録として残すよう努めているが、情報を職員間で共有するための記録方法に工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を大切にし、馴染みの暮らし方に出来る限り近付けるように本人、家族と共に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状態や有する力の把握に努め、本人の暮らしの現状を職員間で共有している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、主治医や看護師と連携し、より良いケアを一番に考えている。職員会議、カンファレンスの実施により意見を共有し、介護計画につなげている。	職員の気づきや、本人・家族の意向等をしっかり踏まえ、かかりつけ医や看護師等に相談しながら、基本的に3ヶ月毎に介護計画を作成している。利用者の状況変化や家族の意向が変化した時は、計画書に変更点を朱書きで追加し当面の計画としている。全ての利用者に対して、月1回の全体会議で介護計画の内容の確認を行い記録として残している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ごとに気付きノートを作成しており、職員間で共有している。また、日々の様子観察などを日誌に残して状況の変化に職員が対応出来るよう努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して本人や家族の思いを一番に考え、柔軟に対応するよう心掛けている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域から医療面のサポートや、入所者の要望を聞き近隣のスーパーへ買物に出掛けたり、食事に出掛けたり楽しんでいただいています。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の岡田クリニック(内科・外科)が1階にあり、体調変化や希望に応じて24時間往診対応が可能であり、安心して自室で適切な医療が受けられる体制がある。	緊急時対応・投薬・往診等の利便性から、利用者は事業所1階の医療機関を内科的受診時のかかりつけ医としている。上記以外の受診は本人・家族の希望を大切に受診支援を行っている。1階の往診医・近隣歯科以外の通院介助は家族が行うこととして契約時にしっかり話し合っている。受診結果はかかりつけ医や事業所から家族に、また、家族から事業所へとお互いに情報を共有している。事業所での受診結果等は「介護日誌」の特記事項欄・Nsからの申し送り事項欄、「介護支援経過」等に記録として残し情報を共有している。	

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階にあるクリニックの看護師と連携をとり、個々の入所者状態を把握し、適切な受診や看護を受け、早期発見につながるよう努めている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院時は連絡を取り、情報交換や相談に努めている。定期的に近隣の総合病院へ挨拶に行き関係作りに努めている。	この1年間、入退院後に事業所で継続支援した人はいない。過去の入院事例では、かかりつけ医から紹介状を、また、事業所からは電話、FAX等で主として「アセスメントシート」の情報提供を行っている。入院中も適時面会に行き安心しての受療と早期の退院に向け関係者と話し合っている。退院時には時には1階医療機関の看護師も同行してカンファレンスに参加し、関係者と話し合っている。また、「看護サマリー」の提供を受け、退院後の事業所での支援に活かしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については契約時に看取りの場や延命治療の有無について入所者と家族等にアンケート方式による確認をとっている。又、重度化した場合は入所者の意思に沿えるように家族等・主治医とで頻繁に話し合いを持ち具体的な対応方針を決定している。	契約時に、同意書に掲げている「施設内で出来る限り看取り介護をする」という事業所の方針を説明し、アンケート方式で「重度化した場合」「看取りについて」の家族の意向を確認している。利用者の重度化が進んできた時は、かかりつけ医が状況の説明を行い、家族等の意向を確認しながら今後の支援方法を繰り返し話し合い、話し合った支援方法を「介護日誌」等に記録として残し方針を共有している。看取りにあたっては、協力医療機関の医師、看護師等とともにチームで支援に取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修において看護師より急変時の対応について学ぶ機会を定期的に作るように努めている。医師、看護師の助言を職員間で共有し活かすように努めている。		

自己 者第	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防用設備の点検を行い(業者委託)、消防署に届出ている。定期的に年2回と新職者採用時に避難訓練を実施している。又、緊急時の職員間の連絡網を整備している。	年2回、夜間想定も含み時には消防署も参加して、避難誘導・消火・通報等の火災訓練を実施している。新人職員には通報・誘導等の訓練を行い、避難経路の再確認等を行っている。日常的にも利用者ごとの避難誘導方法等を話し合っている。廊下には、避難経路をチャート化して掲示し、防火扉も設置している。また、地震による災害シュミレーションを実施している。事業所地下には井戸もあり、米・水等の備蓄も行っている。	運営推進会議等を通じて、地域への協力の呼びかけや、津波時の対応を話し合っておく事が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての入居者が人生の先輩であることを念頭において日常の対応をしている。	年間研修計画に採り入れて、「プライバシー保護マニュアル」に沿って、接遇・プライバシーの確保に関する研修を実施している。また、会議時に具体的事例を用いて、利用者の尊厳保持について職員一人ひとりが考える機会を設けている。日々のコミュニケーションやケアの中で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応になっているかを、お互いに注意合っている。また、季刊紙「萌花だより」等への利用者の写真掲載について家族の同意を得、個人記録類は職員室の棚に保管する等、個人情報の適正な管理に努めている。また、職員には第三者に利用者の個人情報を漏らすことのないよう周知を図っている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者一人一人に自己決定していただけるように声かけひとつひとつに注意を払うように努めている。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人ひとりが自分のペースで自然に過ごせるように「その人にとって…」を職員が日々意識して支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の洋服はご自分で選べるように、入所者の方に選択していただけるよう声掛けをするようにしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みに合わせて好きな物を職員が買いに行ったり入所者と買物をする機会を作るようにしている。行事ごとに季節の味覚を楽しんだり、たこ焼きを一緒に焼いてその場で食べるなどしている。	炊飯と汁物は事業所で作るが、副食(昼・夕)は調理済みのものが委託業者から普通食・ペースト食の形態で届けられ、事業所で加温・盛り付け等を行っている。時には、利用者の食べたいものを買ってきたり、手づくりのホットケーキやたこ焼づくりを楽しんでいる。また、秋祭り時には事業所で調理を行い、バイキング様式で提供している。利用者がご飯の盛り付けを手伝ったり、テーブル拭き等での場面設定や声かけ等、一人ひとりの好みや力を活かそうとした支援を行っている。また、年1回程度、利用者の希望や状況に沿って、外食の機会を設けている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた形態でお食事を提供している。又水分量も一日トータルで把握し、本人の好きな物を提供するようにしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方にはご自分で口腔ケアをしてもらい、出来ない方もその方毎に本人の力に応じた口腔ケアをしてもらい、スタッフが支援を行っている		

自己 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンからトイレ誘導の声掛けを行っている。	排泄チェック表(水分量・睡眠時間等も記載)を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導の声かけを行う等、可能な限りトイレでの排泄を大切にしたい支援を行っている。適正なおむつのサイズを話し合うとともに、夜間も睡眠を重視しながら誘導を行い、おむつ類の使用軽減にも努めている。排泄介助は居室で行い、トイレには「使用中」「空」の表示カードの活用により、プライバシー確保への配慮と、利用者の羞恥心や不安を軽減するよう努めている。排便についても看護師がチェックし、かかりつけ医のアドバイスを排便コントロールに活かしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便カウントを付け、看護師がチェックし排便コントロールを行なっている。又、トイレにて腹部マッサージを行ない、長く座ってもらうようにしている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者の体調を確認した上で、週2回入浴している。本人より拒否が見られる場合は無理強いせず日を変える等対応している。	基本的には週2回、希望を確認して午前または午後の入浴としている。現在希望はないが、家族の希望や利用者の状況によっては、回数を増やす取組みを行っている。重度化している人には、看護師の協力を得ながら支援している。異性介助を嫌がる人はいないが、負担感等で入浴を嫌がる人には、入浴日や時間を変えての声かけ等、一人ひとりの状況に応じて入浴できるよう工夫している。シャワー浴時にはバスタオルを使用し、保温を兼ねて羞恥心の軽減等に努めている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて休息の時間を入所者の希望によりとってもらうようにしている。又、昼夜逆転の方には昼間に起きていただくように食堂にお誘いする等上手な声掛けをするようにしている。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬局に依頼し一包化し、看護師が管理している。薬箱を整備し管理しやすくしている。薬については看護師より申し送りがあり、情報を共有できるようにしている。又、本人の状態の変化が見られれば主治医へ報告している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事などを季節ごとに行なっている。秋祭りでは家族との交流を楽しんでいただいている。一人一人の楽しみごとを職員も一緒に楽しむようにしている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者の希望により近隣のスーパーや公園等へ外出するようにしている(体調・感染症流行の時期など注意を払って)	利用者の状況・希望、天候等に沿って、公園等事業所周辺への散歩やスーパーへの買い物に出かけている。車イスの人も利用者の状況に応じた移動に配慮した支援を行っている。また、ドライブを兼ねて、武庫川沿いの花見に出かけている。	日常的な外出機会を増やすよう取り組んでいるが、より一層戸外に出かけられるよう支援に努めることが望まれる。また、利用者の希望を把握し、普段は出かけられないような場所でも、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援することが望まれる。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方はご自分で金銭を持っているが基本は金庫管理となっている。買物などでは支払を自分でしていただいている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者と一緒に郵便局に行ったり、電話をしたいという希望があればホームの電話を使用してもらっている。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルには季節ごとの花を生けたり、季節を感じてもらえるように壁に手作りで飾り付けをしている。利用者が不快な思いをしないように室温、湿度管理や共有部分の掃除を徹底していきたい。	「クリスマスツリー」「お正月の飾りつけ」「ひな人形」等、季節ごとの手づくりの飾りつけを行っている。コルクボードには利用者一人ひとりの思いが貼り付けられている。廊下には絵画を飾り、温度・湿度管理も行って居心地よく暮らせるよう、また、感染症の防止にも努めている。	コルクボードの更なる活用等、季節感や生活感をより一層採り入れる工夫が望まれる。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士で話せる場をもてるように座席の移動など、職員が工夫しながら対応している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら本人が居心地良い環境づくりをするようにしている。又、転倒の危険性を少しでも減らすように障害物等を置かないように気をつけている。	居室は鏡・時計・家族の写真・愛読書・ぬり絵セット等、趣味のものや使い慣れたものを活かして、居心地よく過ごせるよう工夫している。転倒等の危険性を可能な限り減らすよう、整理・整頓に努めている。また、看取り時には本人の思い等を家族・職員で話し合い、その人らしい居室づくりに努めている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできることわかることを職員一人ひとりが理解するように努め、入所者が安全にかつ自立した生活に向うように日々努めている。		